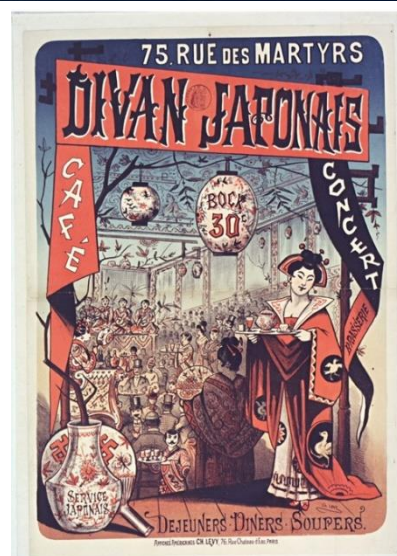


206 トゥールーズ=ロートレックの「ル・ディヴァン・ジャポネ」(2023年10月26日)

アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック(1864-1901)は、浮世絵を研究し、ジャポニズムの影響を受けた画家の一人と言われています。ロートレックの作品の中でも、特にポスターは浮世絵の影響を受けていると言われ、その代表例として「ル・ディヴァン・ジャポネ」(1893年)(写真右)がしばしば挙げられます。しかし、「ル・ディヴァン・ジャポネ」(直訳すると「日本の長椅子」)というタイトルですが、描かれている椅子に日本的な装飾はなく、素人の私はこのポスターから日本の影響を読み取ることができませんでした。



それもそのはず、「ル・ディヴァン・ジャポネ」とは、19世紀末にパリのモンマルトルにあったカフェ・コンセル(19世紀後半から20世紀初めまでフランスにあったショーを見せる飲食店)の名前だったのです!1885年にシャルル・レヴィーが描いたポスター(写真右)に描かれているように、和風の装飾で日本的な雰囲気のカフェ・コンセルでした。二枚とも同じ店の宣伝ポスターですが、全く雰囲気が異なります。

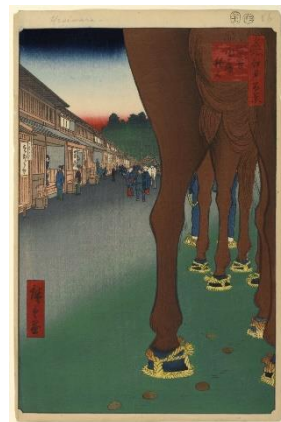


Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

専門家の解説によると、ロートレックが描いた「ル・ディヴァン・ジャポネ」の前方に描かれているのは、人気ダンサーのジャンヌ・アヴリルと音楽評論家のエドゥアール・デュジャルダンで、後方には当時スターだった歌手のイヴェット・ギルベールが描かれています。前方の二人は観客として描かれており、本来宣伝すべきはずの歌手は小さく、顔が描かれていません。顔を描かなくても、トレードマークであった黒い手袋をしていることで、イヴェット・ギルベールであることがわかります。両者の間にはオーケストラボックスがあり、指揮者の腕と楽器の一部が描かれています。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ロートレックと同じ時代に活躍したポスターの人気作家ジュール・シェレ（1836-1932）が、イヴェット・ギルベールを描いたポスターをご覧ください（写真右）。主役が真ん中に大きく描かれています。このポスターは宣伝の目的が分かりやすいですが、ロートレックのポスターと比べると平凡な印象を受けます。このように比べてみると、本来描かれることがない観客を描く一方で肝心な顔を描かないといったサプライズ、前方と後方の人物を大きさのアンバランス、前方の二人の人物、中央のオーケストラボックス、後方の小さな人物という三つの場面に分けて、中央のオーケストラボックスを右上がりになりグレー単色で描くことで斜めの構図になっているところは、浮世絵（右の写真2枚）の影響を受けていると考えられます。ロートレックの「ル・ディヴァン・ジャポネ」は、当時大きなインパクトを与えたことが想像できます。



最後に、ロートレックのポスター作品の中には、[アンリ・リヴィエール](#)の作品をご紹介したときにご説明した落款に似たサインが入っているものがあります（写真右）。これは、ロートレックのイニシャルであるHTLを組み合わせたものです。このデザインは、漢字をイメージしたとも、[日本刀の鐔（つば）](#)に似せたとも言われています。やはり、ロートレックは、浮世絵の影響を受けたジャポニザンだったと言えるでしょう。

